

要約

本研究では、研究1において暗黙の理論である全般的な能力観と、友人関係場面における目標志向性との関連を検討することを目的とし、仮説の検証を行った。その結果、もともと別次元として捉えていた「増大的能力観」と「固定的能力観」が一次元でまとまった。そのため、これまでの研究で「増大的能力観から学習目標に正の影響を及ぼす」とされていた仮説が、「固定的能力観から学習目標に対して負の影響を及ぼす」と修正され、それが支持される形となった。

研究2では、研究1の問題点を改善するため、対人関係場面の課題性や、対人関係場面特有の能力観・特定の観念を考慮することとした。そこで、人付き合いの能力観・性格観と対人関係の課題場面における目標志向性との関連を明らかにするため、仮説3から6までを検証した。また、人付き合いの能力観と性格観の組み合わせによる効果の違いについても検討する余地があるため、仮説7を設け、人付き合いの能力観と性格観の組み合わせによる目標志向性への影響を検討した。その結果、増大的能力観から学習目標に正の影響がみられ、仮説4が支持された。また、組み合わせの検討の結果、仮説7が部分的に支持された。性格観がどうであれ、能力観を増大的に捉えることが学習目標の選択を高め、固定的能力観と可変的性格観が遂行目標得点の選択を高めることが示された。また、能力と性格のどちらも固定的に捉えることは、学習目標も遂行目標もどちらも選択しないことが示された。